

「香川の教育をよくする県民会議」総会開催

どの子にもゆきとどいた教育を

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL(087)867-4797
FAX(087)867-6446
香川県教職員組合
定価1部50円 1月100円
(組合員の購読料は組合費に含む)

香教組ホームページ
<http://www.niji.or.jp/home/kakyoso/homepage>

香教組「署名・カンパ」にご協力ください



「つくる会」系教科書を不採択にと熱く訴える依さん

香川の教育をよくする県民会議(会長 村瀬裕也香川大学名誉教授)は11月17日に香川大学幸町キャンパスで2012年度の総会を開催しました。

経過報告・2012年度のとりくみの重点などについて提案があり、今後も教育全国署名、教育キャラバンなどにとりくむとともに香川における30人学級の実現を求める運動をすすめることが確認されました。

総会の後、依義文さんが「教科書問題を考える」未来を担う子どもたちにふさわしい教科書をを演題に講演しました。

講演の内容

育鵬社教科書づくりの観点

「改正教育基本法、新学習指導要領を最も良く反映した教科書」と主張。他の教科書に掲載されている「反戦平和や護憲、核廃絶、アイヌや在日外国人への差別撤廃、環境保護や地球市民をめざす」などは、「有害添加物」「毒」であると非難。「韓国併合」は植民地支配は日本の

誇り、韓国は感謝すべきで、日本は謝罪する必要はない。南京事件、三光作戦、毒ガス、細菌兵器、731部隊などは中国のプロパガンダと日本の加害を否定。沖縄戦における日本軍の住民殺害など加害記述は「日本を断罪する、貶める」と誹謗する。国際関係は軍事力・経済力で競争する場、紛争は理性的な話し合いでは解決しないと断定する。



話に聞き入る参加者

採択を許すな

6年間扶桑社版歴史教科書が採択されてきた杉並区では、「杉並の教育を考えるみんなの会」と教員などが粘り強いとりくみをすすめて、今回採択を阻止した。「つくる会」などの教科書には賛同しない区長に変わり、教育委員も2名変わった。横浜では、「横浜教科書採択連絡会」が毎月200〜300人の集会を開催した。市内18区すべてに教科書の市民組織がつくられ、「自由社も育鵬社も子どもたちに渡せない」の世論を地域からつくりあげる草の根の活動を展開した。しかし、残念ながら採択されてしまった。

過半数の教育委員を獲得し、教育委員の投票によって教科書の採択を取ろうとした。首長や議会を動かす、首長や教育委員、議員の中に育鵬社の教科書を支持する動きがあれば、それらの人と結びついて水面下で採択獲得をめざそうとするのは、05年の東京杉並区、09年の横浜市で「成功」したやり方。今年はこちらを全国で行った。さらにどこでも学校現場・教員の意見や市民の意見を無視・排除して

参加者の感想

くり、活動をすすめてみよう。政治と教育は切っても切れない関係にあることをつくづく再確認させられました。「戦争ができない国」として、それを根底として教育に携わらなければならぬと強く感じました。

日本の公立学校は現場の教員が教科書を自由に採択できないと言ったことを初めて知りました。もちろん、小中高と公立学校を卒業したので地域ごとに教科書が決まっているのは薄々感づいていましたが、職に就いたのがたまたま私学でしたので教科会を開いて教科書を採択するのが普通だと思っていたのです。確かに、世界から日本が取り残されているのは明白だと感じました。また、教科書の採択もさることながら、国の舵取りと連動している怖さを強く感じました。学問と政治、私は相容れないと思っているのですが、先生、実際のところはどのようなのでしょうか？

初めて育鵬社の教科書を見せただけで、具体的によく分かりました。知らないうちに刷り込みをしてしまい、洗脳してしまふ恐ろしさを感じました。意識的に反対の声をあげなければなりません。

扶桑社「つくる会」の教科書が以前から危ないという認識はあり、高松北中学校が育鵬社の教科書を採択したとショックを受けていたが、具体的にどこが問題かその片鱗しか認識を持っていなかったが詳しく分かってよかった。

小黑板

ある校長がこんな質問をしたそう。質問をしたそう。同級生と給料を比べると私の方がかなり少ない。人事委員会は民間給与と比較して私たちの給与を上げ下げしているが、比較する民間とはいったい誰のことか。月例給における同種・同等の者同士を比較するといふ原則の下、2006年から民間給与との正確な比較を実現し、より適正に公務の給与に反映させるためといって官民比較企業規模の100人以上から50人以上への引き上げが行われた。それにより比較する民間従業員の平均給与がかなり低くなり、それに合わせて、公務員の給与も引き下げられた。それでもまだ55歳を超える職員

校長のしづやき

の給与が上回っているとして、小中学校では校長だけが月例給管理職手当、期末・勤勉手当、へき地手当が減額された。公務員パッシングをすれば人気が出ると言うのか。国家公務員の退職手当400万円超の引き上げが解散総選挙のどたばたに紛れてあつという間に決められてしまった。地方に対して大きな圧力になる。中には、もっと引き下げると驚く発言をする議員もいたそう。校長だけではない、私たち教職員だって、月何十時間もの超過労働をしても残業手当も割り振らない。教職員が夢を持って働けるような政治を行って欲しい。私たちの願いが叶うよう一票を投じようではないか。

12月16日は総選挙の投票日です 貴重な参政権を行使し、投票に行きましょう

主要政党の態度 (11月27日現在) 賛成 反対 空白はデータがありません

部内資料

アンケート項目	民主	維新	自民	生活	公明	みんな	共産	社民	みどり
TPP参加 (NHK日曜討論 11/18より)			関税全撤 廃に反対		十分議論 を				
原発 (NHK日曜討論 11/18より)	2030年代 ゼロ	ルール を構築	10年以内 に新エネ 体制構築	10年後 ゼロ	可能な限 り速やか にゼロ	脱原発	即時ゼロ	2020年 までに ゼロ	脱原発
国家公務員の退 職手当削減法案 (参議院総務委員 会での採決から)						「もっ と削減」 を主張 して反 対			
消費税増税等関 連8法案 (民商だよりより)	凍結した 整備新幹 線や東京 外環道を 復活	「消費 税の地 方化」 で、結 局消費 税増税	「国土強 じん化」 として10 年で200 兆円を投 入		「防災・ 減災ニュー ディール」 をして10 年で100 兆円を投 入		増税する 富裕 層・大企 業から		

教職員と国民の粘り強い運動が、「高校無償化」や「35人学級のスタート」など切実な要求を前に進めてきました。しかし、「学力テスト」体制とさえ言われる学校の状況が教職員と子どもを苦しめ、2009年のマニフェストで廃止とあった「教員免許更新制」は放置されたままです。

子どもたちが大切にされる学校と教育、教職員の願いが生かされる政治が求められています。総選挙は、私たちの要求を実現する絶好のチャンスです。職場と地域で政治を語りあい、主権者としての権利を行使しましょう

国家公務員の退職手当削減法案成立 衆議院解散のどさくさ紛れでの強行

まともな審議なし

法案は、11月2日に閣議決定され、国会に提出されましたが、委員会での趣旨説明や審議は一切行われずに推移してきました。「民間との較差」を理由にしながら民間労働者へのさらなる引き下げ圧力という負のスパイラル、地域経済への影響、何よりも公務労働者の生活と老後への深刻な影響など法案の問題点は多岐にわたっています。共済年金の3段階分廃止後の制度設計も含まれており、より慎重な審議が求められているにもかかわらず、衆議院の解散というどさくさ紛れでの強行など許されるものはありません。

地方での具体化許すな

国家公務員の退職手当削減法案の成立によって、たまたかの舞台は地方に移ります。退職手当の削減が国段階で強行されたことは、各都道府県に対して大きな圧力になります。「国の動向を見ながら退職手当削減」に言及している自治体も出ています。逆に各地のたまたかいを反映して、「今年の実施はしない」と言明した自治体当局も生まれています。地方にはない理由も口実にした国家公務員の退職手当削減であることも踏まえ、地方

での具体化を許さないたたかいが重要になります。

退職手当削減を許さない職場・地域の声を広げ、教職員の生活と老後を守るたたかいが求められています。

いよいよ総選挙

公務員ハッシングは、国民に対する攻撃です。この間、公務員ハッシングをてこに消費税増

税法案が強行されたことなどを見ても明らかです。

憲法擁護、消費税増税の実施阻止、原発ゼロ、米軍基地撤去、TPP阻止、教育予算増、教職員の長時間過密労働解消などをめざし、職場での政治論議を多めに巻き起こし、私たちのめざす政治の実現に向けて奮闘しましょう。

勤勉手当の差別支給

11回目となる勤勉手当差別支給ボーナスが12月10日に支払われます。人事委員会は昨年勤務実績の給与への反映については、より綿密な面談など手続の透明性も含めたより信頼性と納得性の高い人事評価制度の確立に向け、常に実施状況や結果の検証を行うと共に、必要に応じ見直しを行うなど、客観的、かつ、公平・公正な運用が行われるようさらに努めることが必要としています。今年度は制度導入後5年が経過したこと、改めて体制・運用面などについて幅広い検証をと言っ

黙ってないで声をあげよう

昨年12月香教組が勤勉手当アンケートを実施し、回答のあった262名のうち9割を超える教職員が「やる気がでない」「やめてほしい」と答えています。

11月9日に行った県教委交渉でどのように検証を行っているか聞いたところ、校長から意見を聞いていますと回答がありました。評価する方だけの意見を聞くことが検証になるのでしょうか。納得がいけない場合は、校長へ説明を求めましょう。香教組も相談にのります。